

西野中学校区 小中一貫した教育グランドデザイン

西野中学校 西野小学校 西野第二小学校

札幌市の「小中一貫した教育」の目的

「自立した札幌人」の実現に向け、義務教育段階において
「知・徳・体の調和のとれた育ち」の一層の充実を図る



全市共通で推進する「二つの柱」

①課題探究的な学習

②発達の段階に応じた継続的な子供理解

札幌市の「小中一貫した教育」推進の四つの視点

①

②

③

④

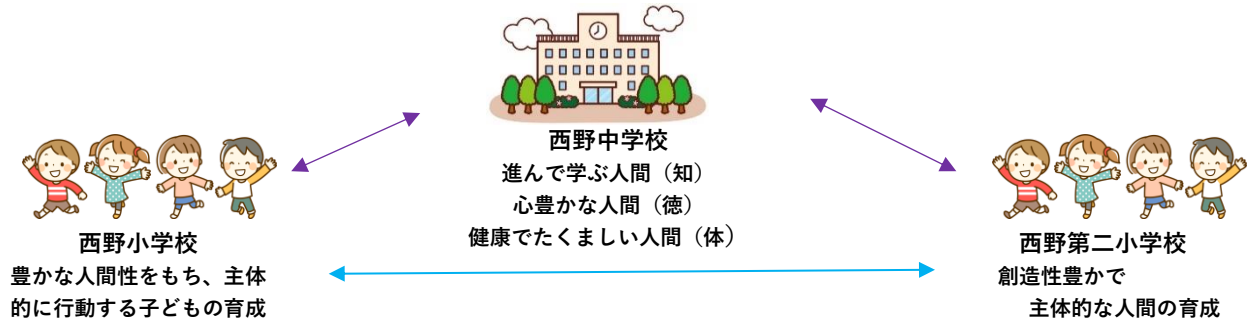
9年間を通した子どもの
学びのつながり

子ども理解・生徒指導の
連続性

教職員の連携・協議

家庭や地域との関わり

組織図と学校教育目標



西野中学校区・目指す15歳の子ども像

自ら進んで学び判断し 私もあなたも大切に作る心を持ち 最後までやり抜くたくましい人

地域の実態・願い

地域に根付いた家庭が多く、保護者も卒業生である子どもが多い。保護者は、学校の教育理念を理解し、協力的である。地域は、子どもたちが地域の環境を守り育ていき、善悪の判断力、社会人としてのマナーを身に付けて成長してくれることを望んでいる。

子どもの実態

友だちと協力することが楽しく、学校を楽しんでいる子どもが多い。反面、少数ではあるが、学年が進むにつれて自己肯定感が弱く、自分のことを好きになれない子どももいる。学習面では札幌市の平均と同様であるが、体力面で、全国平均を下回る項目がみられる。学力の二極化がみられるのも課題の一つである。

2つの柱と4つの視点を踏まえた教育目標

目指す教育

知

- ・興味・関心、疑問を持ち、自ら考える力
- ・自分の考えを分かりやすく表現する力
- ・意欲を持続し、課題解決に向けて見通す力
- ・協力的に課題を追求する力

徳

- ・他者を思いやり、心優しく接する心
- ・自然や美しいものに感動する心
- ・地域の自然を大切にすること
- ・文化を受け継ごうとする心
- ・自らを信じ、伸ばそうとする心

体

- ・運動に親しみ、心身の健康の保持増進に努める力
- ・食に関する正しい知識を身に付け、望ましい食習慣を実践する力
- ・性に関する正しい知識を身に付け、体や命を大切にすること

具体的な取組

2つの柱と4つの視点を踏まえた具体的実践			
知	徳	体	
* 目指す教育を踏まえた9年間の取組			
発達段階に応じた a 小1～小4 b 小5～中1 c 中2～中3 の具体的な取組			
a b c 家庭学習の習慣・始業前着席と授業準備の習慣を定着させる取組 (小・小連携、小・中連携) a b c ICTを活用した学習活動の系統性と充実 (小・中連携した授業見学等の実践、相互研修) a b c キャリアパスポートの充実と継続 a b c 授業公開、共通テーマでの研修、外部講師を招いての教員研修の開催等	a b c 児童会活動と生徒会活動の連携 (ボランティア活動などへの社会参画等を共同で行う) b 中学校の諸活動見学 b 個別の指導が必要な子どもについての共通理解と引継ぎ b 特別な支援を必要とする児童生徒の交流と引継ぎ a b c 特別の教科「道徳」の充実	a b c 各校の特色を生かした運動の推進と交流、地域に根差した運動の開発 (小・小連携、小・中連携、共同開発) a b c 食育に関する共同研究 b c 性に関する講演の実施	

今年度のスケジュール											
管理職会議→ 管 実務担当者会議→ 実											
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
		管1 実1		管2 実2				管3 実3			管4 実4
実4 ：年度末評価と次年度以降への課題および実施予定の連携事業の実施時期の確認 管4 ：実4を受けて、評価・課題・次年度実践事項の確認と協議 管1 ：年度初めの顔合わせ会議（グランドデザインの確認、および行事予定の確認等） 実1 ：年度初めの顔合わせ会議（実践事項の日程調整および次回会議の内容確認等） 実2～3 ：実践事項の実施要領等の細案作成に向けての打ち合わせ 管2～3 ：各校の連携確認、各校の課題の調整協議 今年度の主な取り組み（予定） ・長期休業を利用した相互授業公開 ・西野中学校1・2年生の授業を小学校6年生が授業見学 ・合唱コンクール鑑賞 ・新入生保護者説明会 ・生徒理解に関する引継ぎ3月 ・（総合的な学習の時間を活用しての中学校紹介動画の作成と提供）											

今年度の評価・次年度への課題
【成果】 ・コロナ禍の影響により控えていた長期休業を活用した小中の教師による授業見学、6年生の中学校見学などを実施することができた。 ・総合的な学習の時間の指導計画の交流を行うことができた。 ・実務担当者の会議を通して、学校間の連携が深まった。 【課題】 ・6年生による中学校の授業見学は実施できたが、感染予防に伴い机間の距離確保を優先していることから、小学生が教室内へはいるスペースを確保することが難しい。今後の感染状況を鑑み、検討していく。 ・総合的な学習の時間の交流から、小中学校での学びのつながりをどのようにつくっていくか、また、教科やその他の部分でのつながりをどのように進めていくかについて検討を進めていく。